【重要用語】

□気象要素
□気圧
□圧力
□ヘクトパスカル（hPa）
□パスカル（Pa）
□大気圧
□露点
□飽和
□飽和水蒸気量
□湿度（相対湿度）
□雲のでき方
□水の循環
□気圧と天気

1章　気象の観測　p.150〜159

□気温、湿度、風向・風速、気圧、雲量などの気象情報。▶p.151
□気体によって生じる圧力。▶p.156
□単位面積当たりの面を垂直におす力。▶p.156
□通常、気圧に使われる単位。▶p.156
□圧力に使われる単位。▶p.156

$$\text{圧力〔Pa〕} = \frac{\text{力の大きさ〔N〕}}{\text{力がはたらく面積〔m}^2\text{〕}}$$

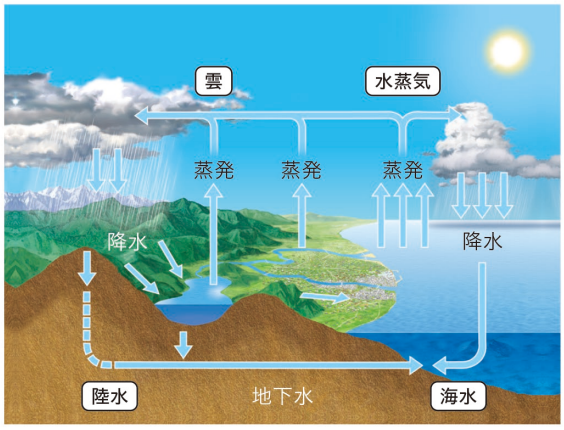
□大気中の空気の重さによる圧力。地表付近の気圧は1013 hPaになる。▶p.158

2章　空気中の水の変化　p.160〜173

□結露が始まる温度。▶p.164
□物質が限度までとけていたり含まれていたりする状態。▶p.164
□1 m^{3}の空間に含むことができる水蒸気の量。飽和水蒸気量を超えた水蒸気は、凝結して液体の水になる。▶p.164
□飽和水蒸気量に対する実際の水蒸気量の割合を百分率で表したもの。▶p.165

$$\text{湿度〔\%〕} = \frac{\text{空気1 m}^3\text{中の水蒸気量〔g / m}^3\text{〕}}{\text{その温度での飽和水蒸気量〔g / m}^3\text{〕}} \times 100$$

□雲は上空で空気の温度が露点よりも下がったときにできる。上昇した空気は、まわりの気圧が低くなるため膨張し、膨張に伴って温度が下がる。
水蒸気を含む空気が上昇し、温度が下がって露点に達すると水蒸気は水滴になって現れる。▶p.166〜170



□地球の表面に存在する水は、固体、液体、気体に姿を変えて循環している。▶p.173

3章　低気圧と天気の変化　p.174〜181

□気圧は高度によって変化するが、日や時刻によっても変化する。一般に、気圧が低いときには、天気が曇りや雨になりやすい。▶p.176

□等圧線
□気圧を海面の高さでの値に直し、地図上の値の等しい地点を滑らかな線で結んだ地図の等高線に似た線。 ▶ p.176

□低気圧
□等圧線が閉じていて、まわりよりも気圧が低いところ。 ▶ p.176

□高気圧
□等圧線が閉じていて、まわりよりも気圧が高いところ。 ▶ p.176

□気圧配置
□高気圧や低気圧の分布。 ▶ p.176

□天気図
□地図上に等圧線や各地の観測データをかき込んだもの。 ▶ p.176

□前線面
□寒気と暖気の接するところでできる地表から上空に伸びた空気の境目。 ▶ p.178

□前線
□前線面が地表と接しているところ。 ▶ p.178

□温暖前線
□寒気側に向かって暖気が進行する前線。 ▶ p.178

□寒冷前線
□暖気側に向かって寒気が進行する前線。 ▶ p.178

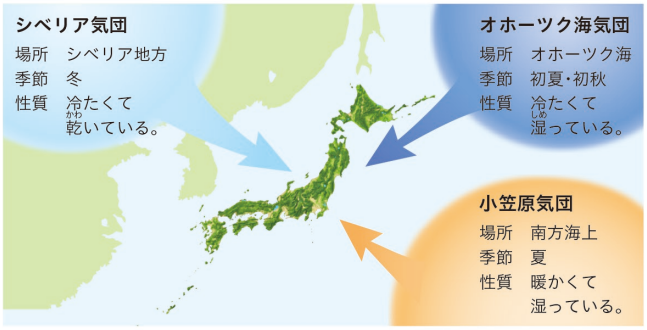
□停滞前線
□ほとんど移動しない前線。 ▶ p.178

□閉塞前線
□低気圧の中心付近で寒冷前線が温暖前線に追いついてできる前線。 ▶ p.178

4章 日本の気象 p.182〜195

□偏西風
□日本のある中緯度付近の上空に吹く西寄りの風。 ▶ p.184

□気団
・シベリア気団
・オホーツク海気団
・小笠原気団
□大きな高気圧が大陸上や海洋上でとどまり、気温や湿度などの性質が一様になったもの。 ▶ p.186



□季節風
□季節によって陸と海の温まりやすさのちがいによって起こる風。 ▶ p.187

□海陸風
□１日の中で陸と海の温まりやすさのちがいによって起こる風。 ▶ p.187

□移動性高気圧
□春や秋に発生し、低気圧と交互に日本を通過する高気圧。 ▶ p.188

□梅雨前線
□６月の中頃から７月に、本州付近で東西に長く伸びる停滞前線。 ▶ p.189

□南高北低
□南の海洋上に高気圧、北の大陸上に低気圧がある夏型の気圧配置。 ▶ p.190

□西高東低
□西の大陸上に高気圧、東の海洋上に低気圧がある冬型の気圧配置。 ▶ p.192

5章 大気の躍動と恵み p.196〜201

□気象災害
□台風の大雨や集中豪雨による洪水や土砂崩れ、また、強風による建物や樹木の倒壊などの他に、これらによるライフラインの寸断など深刻な被害を与えるなど、気象現象による被害が気象災害である。 ▶ p.198

□気象現象の恩恵
□気象現象によってもたらされる自然の恵みには、雨や雪など、人間が生きていくうえで重要な水がある。 ▶ p.200